

令和5年度第1回羽島市国民健康保険運営協議会（会議要旨）

日 時	令和5年8月23日（水） 午後1時30分～午後2時45分
場 所	羽島市役所本庁舎4階 第1委員会室
出席者	<p>（委員）出席者10名 大川眞智子委員、神田春彦委員、大野仁作委員、田中吉政委員、河合悟委員、小川徹委員、老田美智子委員、今井田朋美委員、加藤静恵委員、浅野牧美委員</p> <p>（事務局）出席者10名 松井市長、堀市民部長、棚橋市民部次長兼収納課長、河口収納課課長補佐、國井健幸福祉部子育て・健幸課健幸担当課長、佐藤保険年金課長、野村保険年金課主幹（兼）課長補佐、棚橋保険年金課医療保険担当課長補佐（兼）医療保険係長、波多野保険年金課国民健康保険税係長、佐藤保険年金課主査</p>
内 容	<p>1 市長挨拶</p> <p>2 会長の職務を代行する委員の選出</p> <p>3 会議録署名委員の指名 大野委員、加藤委員</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 令和4年度羽島市国民健康保険特別会計決算（見込）について</p> <p>(2) 「産前産後期間に係る国民健康保険税の免除措置について」</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年度国保税賦課状況 ・新型コロナウイルス感染症の影響について ・羽島市の第三者行為における求償事務について ・保険者努力支援制度（取組評価分）について ・特定健康診査受診状況について ・羽島市第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）の策定について <p><質疑応答等></p> <p>（委員） 国保加入者が年々減少してきている背景は何か。また、全国的に全県的に見てもどうか。</p> <p>（事務局） 令和4年10月の社会保険適用拡大によるものと、国民健康保険から後期高齢者医療制度へ移行される方が多いことである。全国的なものであると考えている。</p> <p>（委員） 令和3年度・4年度と受診率が上がってきているが、この取組の成果は、いつ保険者努力支援交付金の評価に反映されるのか。</p>

また、保険者努力支援交付金の保険者共通評価指標において、低得点の項目についての現状と取り組みは。

(事務局) 3年後の6年度努力支援交付金に反映される予定である。保険者共通指標の低得点は「後発医薬品の使用促進」と「国保税収納率向上」である。

「後発医薬品使用割合」は、差額通知の送付、保険証一斉発送時や国保加入のため来庁された方に対するジェネリック希望シールやジェネリック希望と記載のあるカードケースの交付、ほかに広報紙・広報紙折込での周知を図っている。

「国保税収納率の向上」は、口座振替の推進や、催告文書の発送等により収納率向上に努めてまいりたい。

(委員) 令和元年の特定保健指導実施率が31.7%に下がった理由は何か。見直しは行ったのか。

(事務局) 30年度は、特定保健指導を行っていた保健センターの職員が全員体制で行ったことにより実施率が60%を超え、これが3年度の保険者努力支援交付金に反映された。しかし、全員体制にしたことに伴い他の事業への影響もあったことから、元年度は体制を見直したことにより特定保健指導にそこまで力を注ぐことができず下がった。

今年度より保健指導の方を業務委託し保健指導に力を注ぐことができる体制とした。

(委員) 特定健康診査について、高齢者の中には、体が弱り自分で健診を受診することができない人もいます。今後そういう方が健診を受けられるよう手を打つ必要があるのでは。

(事務局) 今後、受診勧奨案内において、行動変容を起こせるようなアプローチの仕方を検討していきたい。

(委員) 第三者行為について、羽島市消防本部からどのように情報提供を受けているのか。

(事務局) 救急搬送された方の住所、氏名、生年月日、発生日時、医療機関名を概ね月2回提供いただく覚書を結んでいる。

(委員) 5月の国からの通知により、事前に本人の同意なしで消防署や警察等から第三者行為の情報提供を受けることができるようになったという通知があるが、以前からも提供可能だったのではないかと。

(事務局) 以前からも提供は可能であったが、当市としては昨年からは消防署とこのような体制を構築した。通知は来ていることは承知しているが、今一度確認し提示したい。

(委員) 保険証とマイナンバーカードの報道について、羽島市は負担が増えているのか。

(事務局) 国保に関しては、住民基本台帳の情報をもとにしているため、人為的なエラーは発生しない。国からの再調査について連絡は来ていない。

(委員) 国保は窓口で加入手続きをすれば、そのデータがすぐに反映されるのか。

(事務局) 反映までに数日かかる。

(委員) 保険者努力支援制度における後発医薬品促進に関する点数を上げるための伸びしろはあると思うが、何か考えているか。

(事務局) 前年度比により得点が獲得できることもあるため、周知等に力を入れたい。

(委員) 羽島市民病院の後発医薬品使用割合はどうか。

(事務局) 一般名処方を出している薬の割合は 90%を超えている。今後医療機関別の分析等を行いたい。

(委員) 今は、ジェネリック医薬品と言われても安定供給できていない。難しいが分析する必要がある。

(事務局) 保険者努力支援制度における後発医薬品促進での獲得点数については、県内市町村でも点数が取れているところと取れていないところの差が非常に大きい。

(委員) 配点方法がおかしいのであれば現場から声をあげるというのが地方自治の役割である。

(事務局) そのような場があれば申し伝えてみる。